



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三五六号〕

寒露 かんろ

十月八日

初穂曳五十年

「伊勢の秋」は、「神嘗祭」かんなめさい、そして「初穂曳」はつほびきを迎えます。十月、伊勢神宮内宮の宇治橋のもとに、各町(団)の色鮮やかな幟が立つのも、この「初穂曳」の奉曳ほうえいのためでもあります。

毎年十月十五日に外宮へ、翌十六日に内宮へ今年収穫された新穀を伊勢の人々が奉納するのが「初穂曳」です。昭和四十七年から始められ、今年で五十年の節目を迎えました。二十年に一度の「お木曳」や「お白石持」行事では、その技術や精神を継承するのが難しいと、毎年、伊勢神宮の神嘗祭に合わせて「初穂曳」が行われるようになりました。もともと「お木曳」や「お白石持」は、伊勢神宮へ御木や白石を運ぶ労役をお膝元の神領民が担ってきたものでした。しかし、現代ではトラック輸送ができるようになり、その必要がなくなりました。それでも、神領民の発意から伊勢の伝統行事として「お木曳」や「お白石持」は行われているのです。

外宮は陸曳おかびき、内宮は川曳かわびきです。川曳は、内宮を流れ下る五十鈴川流域いすずがわの町(団)が順番に担当するのが習わしです。私も川曳のご奉仕をさせてもらったことがあります。川の水の冷たさに驚きました。途中の休憩で河原に上がると、身体が冷えているのがわかります。それでも、休憩が終わると、五十鈴川に再び入り、綱を曳くのです。実際に綱を曳くと、眺めているだけの五十鈴川が親しく感じるのです。川底のこんなところに石が敷いてあるのか、ここに深みがあるのかなど、初めて知ることが多かったのです。また、清流を保つことの大切さもしみじみと感じました。

昨年が続いて今年も、大勢の人が集まる奉曳は休止し、当番の地区の人々が内宮に新穀を奉納する参拝を行いません。伝統の行事はさまざまに時代を乗り越えて継承されてきたことを今年に改めて実感します。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『第27回 来る福招き猫まつり』

今回のテーマは、「幸せの黄色い招き猫」。
黄色の招き猫は、人と人を結ぶ、良縁を招くといわれています。
皆様にとって、黄色はどんな色ですか？
光り輝く太陽の色、それに向かって力強く咲くひまわりの色、心が弾み、楽しい気持ちにさせてくれる色・・・
私たちは、今年の招き猫の黄色に、そんな意味を重ねました。
皆様が、大切な人とのつながりを改めて強く感じながら、光り輝く未来に向かって力強く進んでいきますように。
招き猫たちが招く「黄色い福」で、おかげ横丁をいっぱいにして、お待ちしております。

と き／10月16日(土)～10月24日(日) 9:30～17:00 (催しにより異なる)

場 所／おかげ横丁一帯

※主催者側の判断により、一部内容に変更が生じる場合がございます。

● 招き猫現代作家展

招き猫は、江戸末期に日本で誕生し、現在では国内外で親しまれ、個性あふれる作品として表現されるようになりました。そんな中から「吉兆招福亭」が選抜した招き猫作家9名が揃います。

場 所／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」
出展予定作家／天野千恵美、有田ひろみ・ちゃぼ、小澤康麿、櫻井魔己子、佐山恭弘、
細山田匡宏、ホソカワマサヒコ、水谷満、もりわじん

● 招き猫作家による実演と個展

4名の招き猫作家による個展。期間中は作家さんが在廊し、実演します。

場 所／赤福別店舗
実演・在廊予定作家／有田ひろみ・ちゃぼ、ゴーあや、佐々木雅恵、水谷満

● 吉兆招福鈴授与

地元の氏神様でお祓いを受けた、ありがたい福鈴です。ポチ袋に入れて929名の方に授与いたします。

日 時／10月24日(日) 9:29～
場 所／おかげ横丁入口常夜燈付近

※雨天の場合、場所が変更になる場合がございます。

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○『聖地巡礼その2』～那智参詣曼荼羅～

熊野は古代より神秘的な聖地とされ、修験道の修行の場として知られていました。
平安中期になり末法思想が世に広まり、救いを求めて阿弥陀信仰が盛んになると、浄土の地としてクローズアップされ、天皇をはじめ貴族などが続々と参詣に訪れました。
以来熊野信仰は大きく広まり、全国的なものとなってゆきましたが、その一翼を担ったのが熊野比丘尼といわれる女性たちの集団でした。
彼らは熊野信仰勧誘のために全国に散らばり、参詣曼荼羅を用いてわかりやすく絵解きをしました。中でも那智参詣曼荼羅は作例が最も多く、今に残っているものも多々あります。
この曼荼羅図を詳細に見ると当時の人々の生きざまがひしひしと伝わってくるようです。曼荼羅図の第一人者である西山先生にじっくりとお伺いします。

と き／10月20日(水) 13:30～15:00

講 師／西山 克 (京都教育大学名誉教授)

参加費／一般 1,650円 会員 1,150円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

なごりづき
名残月

神域の夜空にぼっかり浮かんだ満月を、伊勢の人々は昔から愛でてきました。
山羊と葛を合わせた生地で粒餡を包み、すすきの焼き印を押して名残月を表しました。

てり は
照 葉

木々の葉が黄色から朱色に変わり行く情景が伊勢路の山々でも見られるようになりました。
粒餡を中に包んだ練り切りの紅葉をお楽しみ下さい。

こすもす
秋 桜

白、薄紅、さんご色、コスモスが色とりどりに咲く伊勢志摩の秋。
浮島の生地に葛寒天と羊羹を重ね、風の渡りに波打つコスモスの群れに似せました。